

令和 5 年度

事業の課題に対する 健康局の取組について

大阪市における在宅医療・介護連携推進事業のめざすべき将来像

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、多職種協働により在宅医療と介護を一体的に提供できる体制が構築されている。

事業推進のための課題

在宅生活継続のためには、在宅医療・介護サービスが必要であり、切れ目のない在宅医療・介護の提供体制の構築を推進していく必要がある。

- # 1 切れ目のない在宅医療・介護の提供体制ができているかの現状把握や評価が難しい。**
- # 2 在宅医療・介護連携推進のためには、入退院時の情報共有など広域的な連携の仕組みが必要である。**
- # 3 在宅医療、介護関係者及び市民の看取り（ACP）の認知が浸透していない。**
- # 4 事業が複雑で専門性が高く、区役所・相談支援室ともに担当替えによる引継ぎが容易ではなく、事業の継続性が難しい。**

局の取組

- 1. 事業の進捗管理**
- 2. 広域連携の仕組みづくり**
- 3. 区役所・相談支援室に対する積極的支援**

取組 1 事業の進捗管理

今年度の取組

- (1) 評価指標での進捗管理 ➡ 資料3にて報告
- (2) 区役所・相談支援室への取組調査からみる事業の進捗管理
 - ・事業の取組状況について区役所、相談支援室へ年2回/調査を実施
 - ・個別支援の実施

取組 2 広域連携の仕組みづくり

今年度の取組

- (1) 看取り場面をテーマとした多職種研修会の開催
- (2) 11月を人生会議（ACP）強化月間として区役所の取組を推進
- (3) 大阪市『在宅医療・介護連携相談支援室』活動報告会の開催
- (4) 健康局主催の市民向け人生会議（ACP）セミナー

} 前回
報告済

大阪市『在宅医療・介護連携相談支援室』活動報告会

【日 時】 令和 6 年 2 月 26 日（月） 午後 1 時 30 分～ 4 時 40 分

【内 容】 報告 大阪市内「在宅医療・介護連携相談支援室」の活動報告

特別講演 『地域包括ケアシステム構築の未来を見据えて
～在宅医療・介護連携の現在とこれから～』

講師 三菱UFリサーチ&コンサルティング株式会社
共生・社会政策部長 / 主席研究員 岩名 礼介 氏

【場 所】 大阪市立天王寺区民センター

アンケート結果

【参加者】 139名

【回収数】 124名（回収率：89.2%）

1) 所属先の所在地

大阪市内	大阪府内
113 (91.1%)	11 (8.9%)

令和5年度
大阪市『在宅医療・介護連携相談支援室』
(在宅医療・介護連携支援コーディネーター)

活動報告会

令和 6 年 2 月 26 日（月）
13：30～16：40
(13：15より受付開始)

大阪市では再びは再度は在宅医療・介護連携相談支援室を開設し、医療と介護の連携を推進するにあたり活動を開始しています。
今回の報告会では、在宅医療・介護連携相談支援室の活動報告に加え、「地域包括ケアシステム構築」に向けた特別講演を企画しました。
在宅医療・介護連携推進事業に関わる医療・介護関係者、市区町村の事業担当者等が参加、蓄えてください。

内容 第1部 報告
大阪市内「在宅医療・介護連携相談支援室」の活動報告

第2部 特別講演
「地域包括ケアシステム構築の未来を見据えて
～在宅医療・介護連携の現在とこれから～」

三菱UFリサーチ&コンサルティング株式会社
共生・社会政策部長 主席研究員 岩名 礼介 氏

会場 天王寺区民センター
大阪市天王寺区生玉町7-57（アクセスマップは裏面）

対象 在宅医療や介護に関わる専門職、市区町村の事業担当者

定員 200名（先着）

主催 大阪市健康局 健康推進部 健康推進課
TEL 06-6208-9940 FAX 06-6202-6967

申込期間
1月15日（水）～2月19日（月）

2) 所属先

病院	診療所・クリニック	歯科医院	薬局	訪問看護ステーション	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	訪問介護事業所等	行政	在宅医療・介護連携相談支援に関する窓口	その他	計
9	6	2	5	6	15	6	1	42	25	7	124

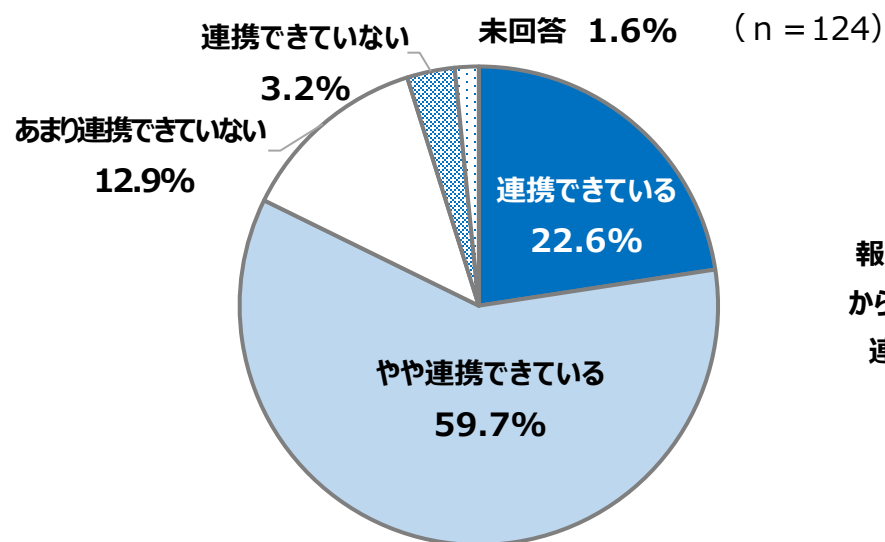
【その他 内訳】・老人保健施設 ・訪問鍼灸 等

3) 職種

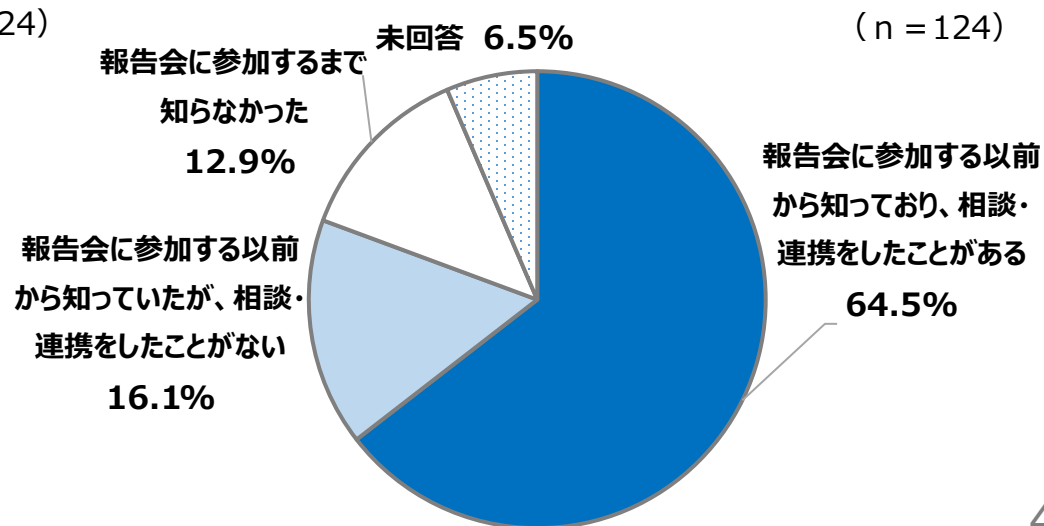
医師	歯科医師	薬剤師	保健師 看護師	介護支援 専門員	社会福祉士 MSW	介護福祉士	事務職	その他	計
3	2	5	36	14	24	1	30	9	124

【その他 内訳】・理学療法士 ・作業療法士 ・鍼灸師 等

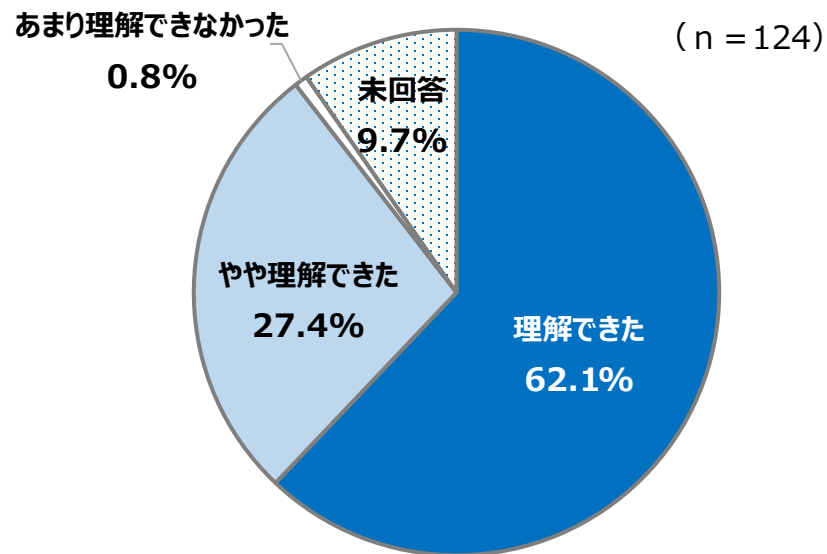
4) 他職種との連携について



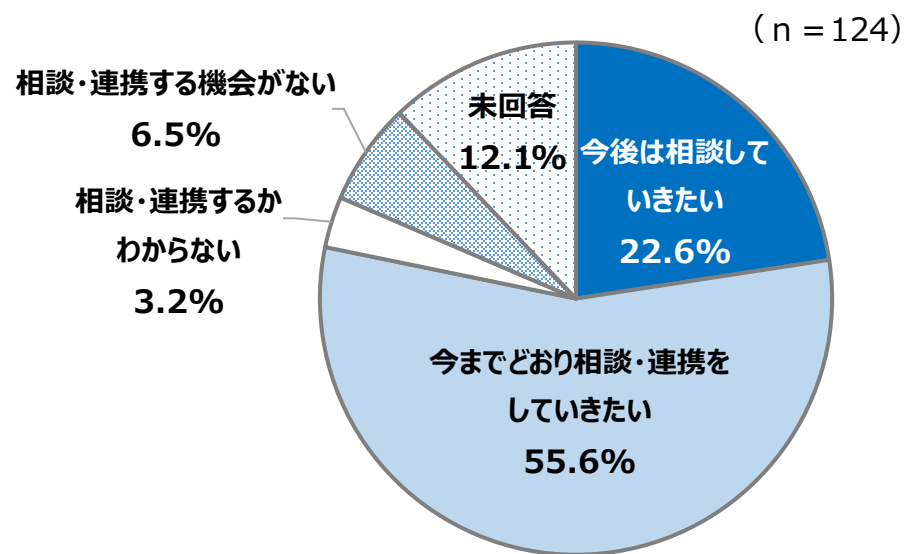
5) 相談支援室の認知度について



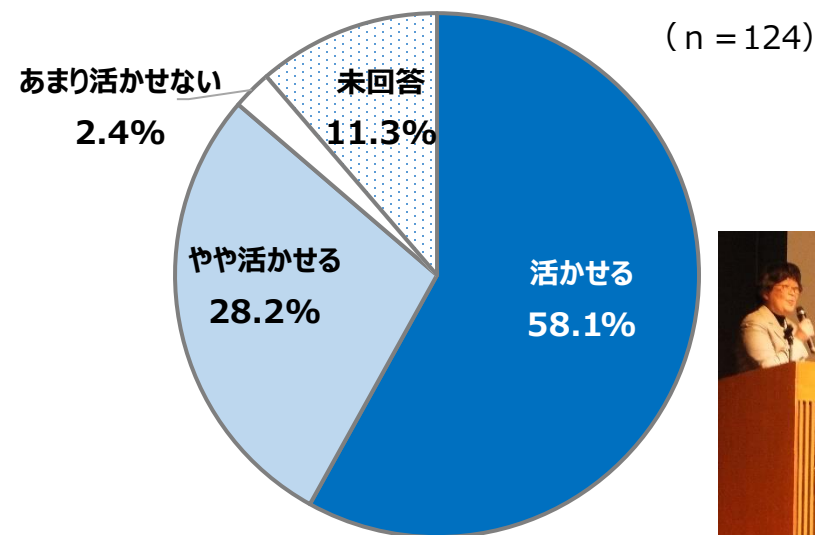
6) 相談支援室の活動について



7) 今後の相談支援室との連携について



8) 特別講演の今後の活用度について



自由記載『心に残った言葉』

【第1部 活動報告について】

- ・ACPの手帳は救急が目につきやすい保管場所を考える。
- ・救急の人との連携も大事。
- ・ACPは50歳より考える＝親と考える。
- ・ケアカフェ 小地域単位で実施する。
- ・色々な切れ目をつなぐ。区をこえた取組。
- ・地域住民の為に何をやりたいのかが「核」になる。
- ・病院以外は在宅扱いでいい。
- ・在宅医療介護連携は施設が重要。
- ・連携したい職種は主治医、医療介護連携タイム。
- ・連携は実は負担、それを強みに変える。
- ・連携を自発的に求めたくなる環境をつくる。
- ・求められている人柄は「話しやすい人」。
- ・出来ないことは出来る人に頼る。
- ・行政と一緒に取り組む。
- ・やると決めたらやれそうなことからやってみる。

【第2部 特別講演について】

- ・転々生活からの脱却、脱病院依存。
- ・人にケアを合わせる仕組み。
- ・その人のなじみの環境をどこまで守ってあげるか。
- ・「選択できる」地域づくり。
- ・施設でどこまでできるか、看取り限界点を上げる。
- ・まずは実態を数値化することの大切さ。
- ・転々生活の計測・在宅生活改善調査・居所変更実態調査・負担の分散は大事。
- ・水平分散、垂直分散。
- ・医療の負担をどう分散させるか。
- ・連携は負担、どう分散、軽減するか。
- ・実態を把握していないと目指す取組はできない。
- ・数値化しないと嫌になる。ゴールを数値化してそこに向かう。

自由記載

【第1部 活動報告について】

- ・各区のACP等に関する熱意、区民への向けての思いが伝わり、自身の活動区にも活かし実りある活動をしていきたいと思った。
- ・コーディネーターの活動力にびっくりしました。当区も目指したい。
- ・区でこんなに取組が違うのかと驚いた。
- ・「いいところ探し」が医療職は「ダメなところ探し」をしてしまいがちなのでとても良い取組だと思った。
- ・0を1にする時は大変だったと思いますが参考になった。
- ・地域により課題の抽出と取組が多々あることがわかる報告で、大変勉強になった。
- ・自身の区の多職種間との顔の見える関係を構築していくこと、連携を深めていくことが重要であると思い今後の活動への参考にしたい。
- ・コーディネーターの役割、これからどんな取組をするか、少し見えた気がする。
- ・各区の活動が誰と何をして作り上げてきたのかが気になった。
- ・（他市から参加し）大阪市の各区の取組報告を聞き、自分たちのところでは何ができるのか職場に持ち帰り考えたい。
- ・行政の担当者と一緒に検討しなければならないので、コーディネーターと区担当者のペア参加、協議の機会になればいいと思う。

【第2部 特別講演について】

- ・講演がとてもわかりやすく有意義であった。
- ・実態調査で現状を把握することの重要性などがわかりました。
- ・自宅だけではなく「施設も自宅」ととらえてケアしていくことがこれからの時代必要であると思った。
- ・転々生活に対して今までは病状が悪くなれば仕方がないと思っていたが、方法を変えるとその人がその人らしく過ごせる期間が増えるのは目から鱗だった。
- ・持続可能にするためには、それぞれが担っている業務を軽くする視点が必要だとわかった。
- ・他都市の取組と大阪府・大阪市の状況が理解できて良かった。

【今後の希望等】

- ・施設関連の連絡会が発足していない区において、立ち上げ支援などがあればよいと思った。
- ・市の目標値（指標）を決めてほしい。
- ・居所変更実態調査の情報を発信していただきたい。

【来年度にむけて】

- ・在宅医療・介護連携相談支援室の活動を大阪市内や府下の事業関係者に知っていただく機会となっており、広域的な連携促進となるため、引き続き開催していきたい。

人生会議（ACP）普及啓発セミナー（大阪市健康局主催）

【日 時】 令和6年1月18日（木） 午後 1時15分～2時30分

【内 容】 『人生会議は映画「わたし」の脚本づくり』

講師 医療法人 綾正会 かわベクリニック 看護師 川邊 綾香

出演 東淀川区住みます芸人 福人「ふくんちゅ」

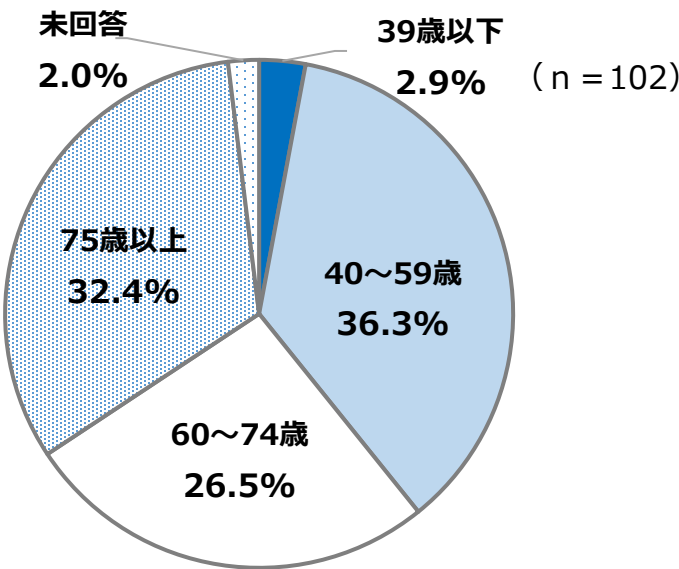
【場 所】 中央区民センター

アンケート結果

【参加者】 108名

【回収数】 102名（回収率：94.4%）

1) 参加者の年齢



粗品進呈 大阪市健康局主催人生会議（ACP）普及啓発セミナー

吉本芸人と一緒に学ぶ
どうしたい？
～もしものために今、できること～

日時 令和6年1月18日（木）
午後1時15分～2時30分

会場 中央区民センター
(アクセスマップは裏面)

講師 医療法人 綾正会
かわベクリニック
かわベ あやか
看護師 川邊 綾香 氏

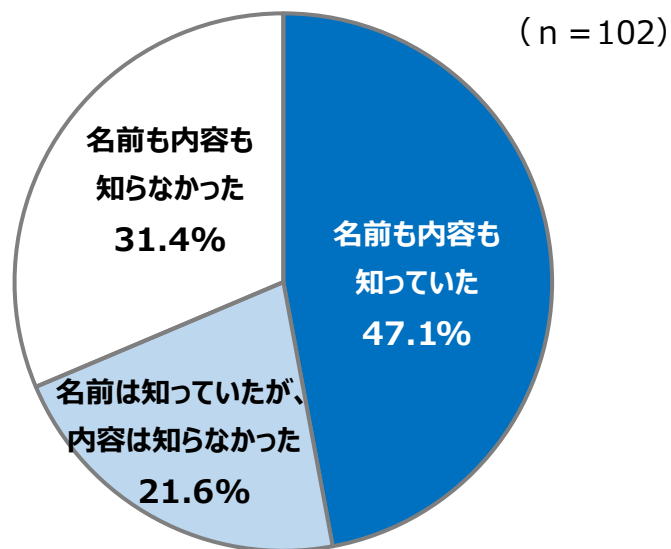
『人生会議は映画「わたし」の脚本づくり』

脚本づくりとは、映画「じぶん」のエンディングを設計すること。
でも、どんな結末を見たいかは、主演の本人次第。
「ハッピーエンドだ！」と判断できるのは本人だけなのです。
そのために、主演が希望する結末を脚本化して、まわりが「知っておきましょう、これこそが、「人生会議」になります。
多くの人生会議にかかわってきた在宅医療専門の看護師が「幸せて、おだやかな最期」の脚本づくりのコツをレクチャーします。

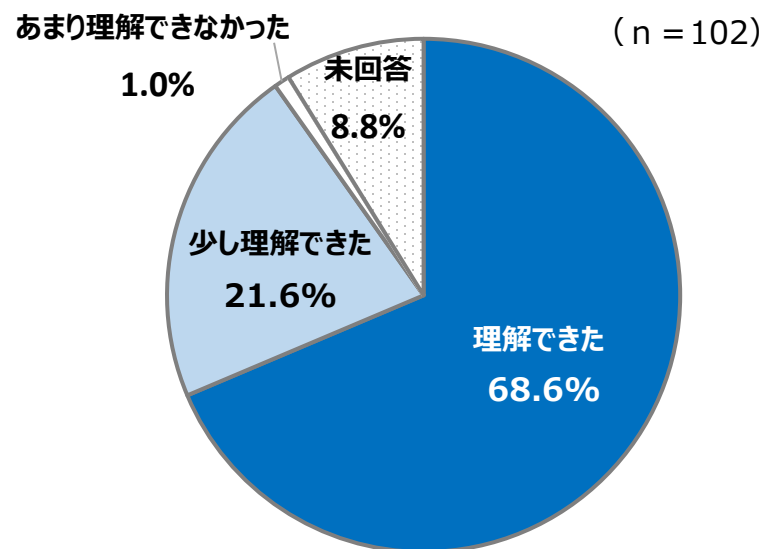
出演：吉本興業
東淀川区住みます芸人
福人(ふくんちゅ)氏

対象者 大阪市内にお住まい・お勤めの方

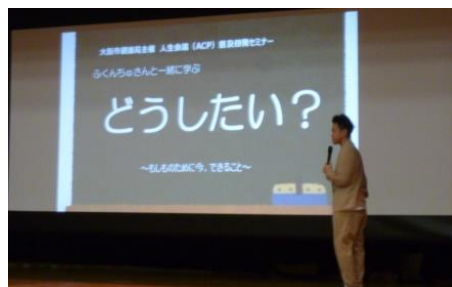
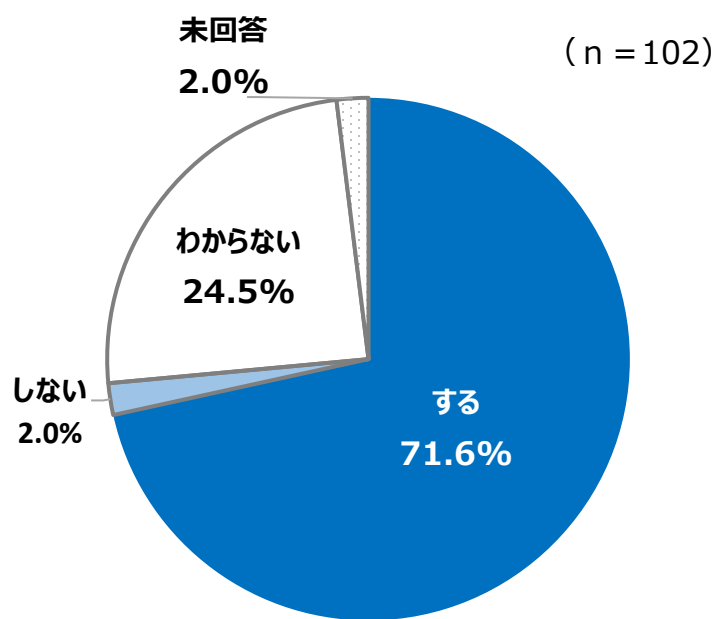
2) セミナー前の「人生会議」認知度



3) セミナーの理解度



4) セミナー後「人生会議」をしようと思うか



今年度の取組

(1) 区役所への支援

- ①『在宅医療・介護連携推進事業 区担当者等説明会』の実施 ➡ 前回報告済
- ②区役所への個別支援・具体的アプローチに対する支援
(取組調査等より現状と課題を把握し、必要な区へ個別支援を実施)

(2) 相談支援室への支援

- ①コーディネーター連絡会を活用し、コーディネーター間の相互連携の支援
- ②相談支援室への個別支援
- ③新任コーディネーターへの支援 ➡ 前回報告済

(3) 区役所・コーディネーターのスキルアップと連携

- ①『区役所実務者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター合同研修会』の開催
- ②地域包括ケアシステム推進研修会（4事業合同研修会）の開催 ➡ 前回報告済

第2回 区役所実務者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター合同研修会

【日 時】 令和6年1月18日（木） 15：00～17：00

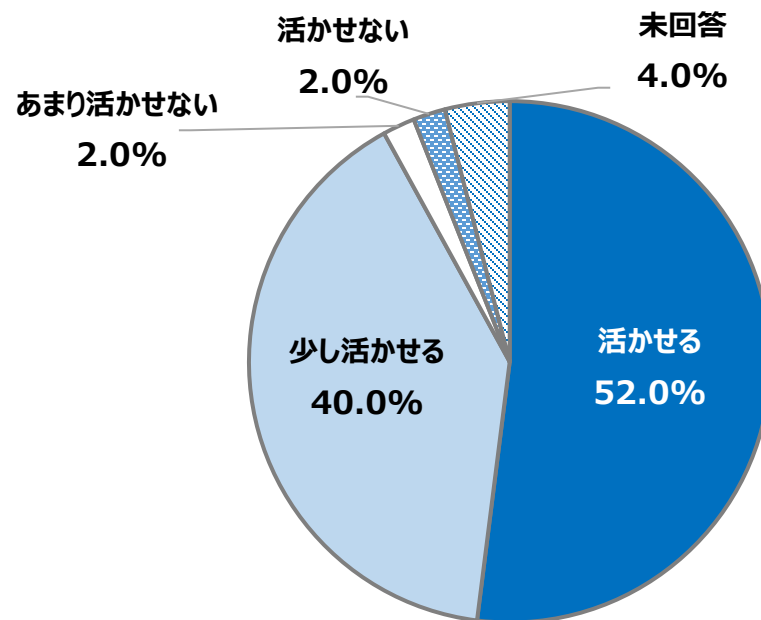
【内 容】 『在宅医療・介護連携推進事業の取組調査について』

【場 所】 中央区民センター

アンケート結果

【参加者】 52名（内訳：区役所職員 29名 コーディネーター他 23名）

【回収数】 50名（回収率：96.2%）



【自由記載】

【業務に活かせるような内容について】

- ・他区の実践を聞き、月1回定例で会っているということが関係性ができていいと思った。
- ・区役所用の実施状況調査票があるのを知らなかった。他区で区役所とCOで調査票をもとに取組状況を確認して課題を共通認識するといった話があり、当区でも今後活かそうと思った。
- ・区の担当者と意見交換をすることができ、来年度は実施状況調査をお互いに確認しながら進めることができるとの話ができ、非常に有効な機会となった。
- ・評価を区役所と一緒に話すことで、課題と思っていることを確認し合って、目標とすることができたという他区の話聞いて、評価を区役所と一緒に事前に話し合うことがよいと思った。（評価の活かし方として）
- ・他区のCOや役所の方の活動が少しわかることができ、次年度の活動の参考になった。どのような活動をされているのか、具体的に理解でき、（3師会との協力）多職種研修の必要性も理解できた。
- ・他区の方と一緒にグループワークをしたことで、悩みや相談ができ、今後の活動に役立てたいと思いました。
- ・ACPの周知にはもしバナゲームが有効だと思いましたので、今後も使っていきたいと思う。

【今後の研修の要望】

- ・現状把握について、各区共通で使えるフォーマットを作っていただけると効率的に進められると思う。
- ・市全体の会議で意見があった課題などご教示いただきたい。
- ・区民フォーラムや多職種研修のテーマの候補にどんなものがあるか。テーマ設定のヒントになる研修。
- ・医療保険・介護保険以外の制度について。